

## 令和元年度 中国地方整備局

### コンプライアンス・アドバイザー委員会(第1回)議事録概要

1. 開催日時 令和2年2月25日(火)～令和2年3月12日(木)

\*各委員への個別説明にて実施

2. 委員 委員長 大本 和 則 弁護士  
委員 磯村 定 夫 (一社)中国地域ニュービジネス協議会参与  
委員 中井 幹 夫 中国新聞社論説委員  
委員 平野 実 県立広島大学教授  
委員 山田 希 恵 公認会計士

### 3. 議 事

・令和元年度

中国地方整備局コンプライアンス推進計画に基づく取組状況報告

・令和2年度

中国地方整備局コンプライアンス推進計画(案)

### 4. 委員からの主な質問・整備局からの回答

質問① 整備局内でのコンプライアンス関係通報窓口への通報件数、内容、その対応についてはどのようになっているのか。

回答① 令和元年度の通報件数については1件で、事業者の応接に関する通報である。事実関係について局内で個別に聞き取り調査を行うとともに、幹部職員に対して注意喚起を行った。

質問② 整備局内で不祥事が発生した場合には、具体的な不祥事の内容、懲戒の内容、及び、より具体的な対応まで本部長指示に記載した方が良いのではないかと。

回答② 当整備局では、個別の不祥事等事案に関し、ガイドラインに基づいて公表している。不祥事が発生した場合には、速やかに全職員へ綱紀保持についての周知徹底を行い、類似の事例を出前講座やコンプライアンス・ミーティングのテーマとして取り上げるなどして、再発防止に取り組んでいる。

**質問③** コンプライアンス・ミーティングにおいて、幅広いものの見方を養うために、異業種や民間企業などの事例も取り上げて議論することも重要と思われるため、バランスの取れたテーマ選定をすること。

**回答③** 幅広いものの見方を養うためには民間事例は有用と考えられるため、出前講座における不祥事案や、外部講師による講演会等のテーマに取り入れることにより実施していく。

**質問④** 職員のコンプライアンス意識醸成活動(講演会・出前講座・各種研修等)において、講義内容の重複廃止やカリキュラム等の中身の見直しをお願いしたい。カリキュラムの見直しにあたっては、研修生の当事者意識を高める工夫として、研修生参加型やシミュレーション訓練型等も検討されたい。

**回答④** 令和2年度においては研修カリキュラムを見直し、座学のみでなくグループディスカッションやシミュレーション訓練等を積極的に活用する。また、出前講座においても同様に受講者参加型となるよう工夫する。

## 5. 委員からの主な意見

- ・職員一人ひとりが、他人事ではなく『自分のこととして』捉えられるようにするというコンセプトに沿って、各種施策の充実を図ること。
- ・各種研修や講習会については、受講者の当事者意識を高めるために研修生参加型等を取り入れたり、他整備局との情報交換を行って好事例の収集に努め、より効果的に実施できるよう工夫すること。